



第15号  
56.1.1

会報  
**やまぐち**

発行者  
山口市駅通り2丁目9番15号  
山口県土地家屋調査士会  
TEL 山口②5975  
郵便番号 753  
印刷所  
山口市旭通り1丁目1の6  
桜 プリント企業組合  
TEL 山口②1712

目次

- ・新春のごあいさつ ..... 山口地方法務局長 大坪 芳太郎 (2)
- ・本部だより 雨中の決戦 岩国Aに凱歌 ..... 総務部 (3)
- 第5回司調親睦ソフトボール大会
- 事務研修会のお知らせ ..... 企画部 (3)
- ・資料 証紙貼付状況等調査結果のまとめ ..... (4)
- ・ニュース ..... (5)
- ・防長席 続 小骨少々 ..... 山口支部 木下 勝 (6)
- ・随想 禪と非常呼集 ..... 副会長 新本 清人 (11)
- ・やぶにらみ 下関地名考(3) ..... 下関支部 前田 博司 (13)
- ・防長人物抄 長州人気質再録 ..... (15)
- ・お知らせ ..... (16)

長門峡の吊り橋 撮影 高木義郎会員



山口県土地家屋調査士会



# 本部 だより

## 総務部

### 雨中の決戦岩国Aに凱歌

#### 第五回司調親睦ソフトボール大会

去る十月二十六日  
(日)、例年の通り、

山口県司法書士会・山口県土地家屋調査士会両会合同の親睦ソフトボール大会が徳山市周南緑地グラウンドでおこなわれました。

過去四回が好天に恵まれたなかで挙行されたそのむくいがこの期に集中してか例年とは打ってかわっての悪天候のなかでの強行試合となりました。

気の早い冬將軍の贈物の寒波と時折り強く降り出す気まぐれ空模様のおかげで執念深く試合を続行し、ついに勝利の栄冠は岩国Aチームの上になんぜんとかがやく結果となりました。

過去四回、毎回覇者が交替するというジレンスは、今年もまた実証されました。  
二位は前年の覇者萩チームで、岩国Aチームとは6対4の好勝負でした。  
三位決定戦は地元徳山同志の対戦となり、徳山Aチームが辛勝し残念

賞を獲得しました。

来年の覇権を目指して、精進をちかう各チームです。どのチームが最後に笑うものとなるか乞御期待。  
今年もまた、この催しが無事に終了できたことを関係者一同感謝致しております。

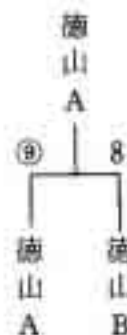
## 企画部 事務研修会のお知らせ

来る二月八日(日)山口県商工会館(山口市中央町)において事務研修会を開催いたします。講師は大坪芳太郎山口地方法務局長、研修内容は表示登記の基礎理論(具体的テーマ未定)であります。ご承知の通り同局長は長年法務行政に携ってこられ、実務・理論両面のヴェテランであります。ぜひ全会員研修参加されるようお願いいたします。研修テーマその他具体的に決定の上、あらためてご案内しますが、右、予めお知らせいたしますのでお含みおき下さい。

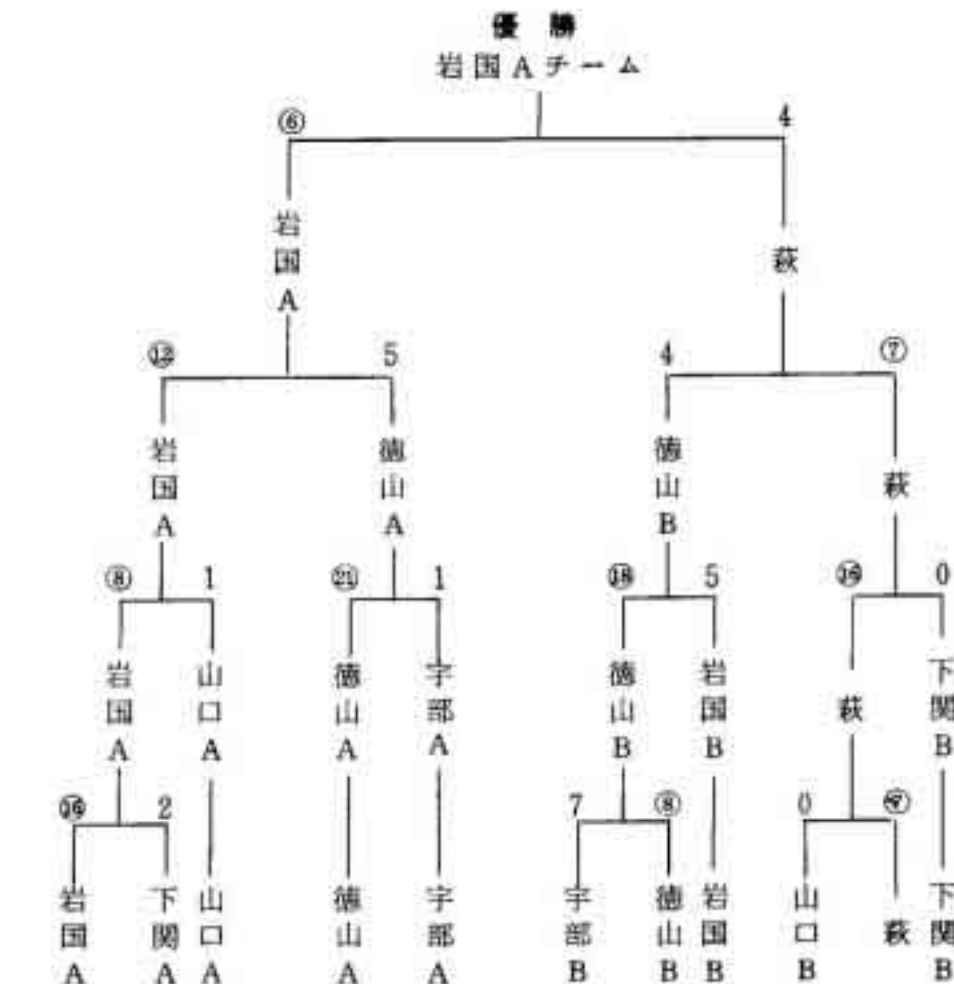
## 戦績得点表

昭和五十五年十月二十六日 於 徳山市

三位決定戦



優勝  
岩国Aチーム



証 紙 貼 付 状 況 等 調 査 結 果 の ま と め  
(昭和55年4月分全額下表示量記)

昭和55年9月調査

所在地	調査件数			申請内訳			調査結果			貼付数	① × 100	② × 100	③ × 100	④ × 100
	①土 籍	②籍 外	③計	④調 査 士	⑤他 記	⑥無 人	⑦	⑧	⑨					
岩 手 県	178	138	316	258	76	82	3	3	—	1755	1914	1470	432	116
旭 川 市	196	84	280	204	74	2	2	2	—	1304	2147	1564	367	0.98
茨 城 県	44	22	66	55	9	2	14	—	—	467	1413	1177	192	25.45
上 野 市	97	7	104	19	85	—	3	3	—	355	929	535	239.4	15.78
久 保 市	212	30	242	52	187	3	1	—	—	737	3283	705	25.37	1.82
盛 岡 市	175	153	328	282	43	3	10	—	—	1647	1991	1712	261	3.54
大 館 市	196	109	305	217	88	—	2	—	—	1181	2582	1837	7.45	0.92
新 井 市	87	58	145	72	70	3	—	—	—	856	1693	841	8.17	—
鹿 角 市	30	5	35	10	18	1	—	—	1	158	2215	1012	11.39	—
山 形 市	322	217	539	347	184	8	55	2	5	2526	2132	1273	728	18.85
庄 原 市	425	151	576	270	305	1	3	—	1	1720	3348	1569	17.75	1.11
酒 田 市	68	9	77	28	51	—	1	1	—	209	3684	1244	24.60	3.84
大 曲 市	116	22	138	43	113	2	1	—	—	521	7932	825	21.68	6.97
栗 山 市	54	41	95	48	27	—	—	—	—	362	2038	1204	7.33	—
酒 田 市	100	20	120	12	105	3	2	—	—	314	3821	382	33.33	16.66
計	232	96	328	162	140	26	5	—	9	1490	2201	1087	839	3.08
岩 手 県	95	18	113	20	86	7	—	—	—	377	2997	530	22.81	—
旭 川 市	215	46	261	109	151	1	—	—	—	956	2730	1140	15.79	—
宇 都 宮 市	627	245	872	590	277	5	29	1	—	3250	2683	1815	6.52	4.91
小 野 市	278	54	332	111	29	132	8	—	188	756	3320	1468	383	7.20
厚 田 市	62	38	100	68	28	4	10	—	4	447	2237	1521	625	14.78
下 田 市	308	247	555	461	90	4	—	3	4	3251	1707	1418	276	—
豊 田 市	174	15	189	29	160	—	—	—	—	429	3865	593	32.71	—
鹿 角 市	96	7	103	17	83	3	2	—	—	306	3366	555	27.12	11.76
計	4427	1812	6239	3488	2479	272	153	7	212	25440	2452	1371	974	4.38

(注) ①……… 宛名の貼付あり  
 ②……… 市証書補正の状況  
 ③……… 市調査士申請と認められるもの  
 ④……… 昭和55年4月分の不備調査案件数



## 防長席

## 続小骨少々

山口支部 木下 勝

前号の小稿に対し、本会の反響は、殆ど無いに等しかった。

むしろ司法書士会の方が大きかった位である。

やはり、あんなもの読む暇があったら測量にでも行った方が良く、という位多忙な人が多いのか、それとも内心、「我が身が可愛いのは誰しも同じき。顧客を確保し、その数を増加させるためには、ダンピングしなくちゃならんこともあるさ。」と思っているくせに、表立って何か言おうと不当誘致をしていることを自ら告白するようなものだから何も言わないに眼る、とばかりにダンマリを決めこんでいるところであろうか。

反響がないものを書いて仕様がなと思うが、ひとり広報部長のみハシャイでいて「あれは私の言いたいことを書いて貰ったようなものですワ」と言い、果ては「あの続きは書けませんか」とまで言う。

そう言われても、あんまり書く気しないなあ、と思っていた処、或る事件を契機に、俄然、書くネタが猛然と湧き起ってきた。流石、広報部

長、このことあるを予期していたものであろうか。

その事件とは、こうである。去る十一月三十日、山口支部の研修会が行われたのであるが、先般、各会員に配付された、「報酬額基準—別紙一—」について、支部長が説明を行った際、土地分筆登記（定面積の場合）に触れたあたりで、まさに私が前号で書いたとおり、「こんなに高くは貰えない」とか、「貰えないものを決めても仕方がない」という不見識極まる声が、随所に挙ったのである。

噫々止んぬる哉。研修会に出てくる会員にしてこれである。

抑々、規定を超える報酬を貰おうというのならともかく、規定の運用の範囲で、しかも他会に較べて安すぎる運用を改めて、他会に少しでも近づけましょう、というのに、それが貰えない杯とは、何たる欲の無さ、自己抑制の強さ、今どき珍しい天然記念物的精神、それより何より、私に言わせれば見識のなさに呆れかえるばかりである。

場合によっては、このような精神

構造は、美徳と称せられることがあるかもしれないが、調査士会の一員としては、自分一個のことしか考えないエゴイステイックな精神として排斥せらるべきであると思う。

御承知の如く、歯科医師業界では、あれだけ国民の批判を浴びマスコミが騒いだにも拘らず、一部を除いては、依然として差額診療が止まない。けれど、保険診療報酬があまりに低額だからである。

いくら批判されても、彼らは、彼らの技術に対する政府の低い評価に對し、あのような形で抵抗しているのだと思う。それにひきかえ、わが山口会のお歴々の人の好き(?)はどうだ。

「これだけは最低貰っても良いのですよ」というのに「そんなには戴けません」と言う。あんまり美談過ぎて涙も出ない。

良い意味でも悪い意味でも、山口市は、日本の県庁所在地の中では最も田舎であることを見事に立証してみせてくれたようなものである。

こんな非都会的感覚で会をリードされては、県下の他都市会員が迷惑するといふものだ。手前が勝手に貧乏するのは構わないが(いや、そういうのに限って豊かなのはどうか。薄利多売の商人に激しているからか)どうか他人の足を引っ張るのだけは止めてくれと言いたい。調査士はプロフェッションなりと

言っている手前、あんまり金のことには言いたくないが、現に我々が生存している社会が、資本主義社会である以上、全て、ものの価値は貨幣で量られる傾向があることは、厳然たる事実である。我々の仕事の価値を量る尺度が報酬額だとしたら、それを低く定められるということは、我々の価値が低く評価されるということに他ならない。

そのように低く評価されるということは誇り高い人間なら我慢できないことではなからうか。

逆にいえば誇りを喪失した人間にどうして責任ある仕事ができようか。我々の仕事の重要性、責任の重大さを認識せず、良い加減な気持で仕事をしているから低い報酬でも良い杯という不見識なことをいうようになるのである。

日調連から発行された、「調査測量実地要領」に従って、キチンとした仕事をしようと思えば、今の報酬は断然安すぎるのである。

又、近年頓に上昇した不動産の価格との対比に於ても、安くこそあれ決して高いといふことはできない。不動産の如き高価物件に関する、重要な職務である以上、その価値に応じた報酬が与えられて然るべきである。

己の職務の重要性を認識せず自己卑下ばかりしているから、日雇人夫の手間仕事と同じ発想で、報酬が高

すぎる杯と感ずるのである。我と我が身を申して何の得があるか。自分がひとり勝手に申下するのは構わないが、それが報酬ダンピングという形で他の会員に影響を与えるから困るのである。そういう会員は、会の結束を乱すものとしてどしどし綱紀事案として取上げるべきだと思ふ。

とかく己の職業の社会的評価が低いと思つている人間は、その補償作用として他の世界で高い評価を得ようとする。

その結果、名誉ある地位を得たとせんか、忽ちにして同業者と利害を異にするに至る。即ち、同業者は、低評価、低収入に悩み、少しでもそれを上昇せしめんとする強い願望を抱いている。

しかるに己は、既にして名誉ある地位を得たのである。むしろ、低い報酬で奉仕することは、犠牲的精神の現れとして、低い報酬が逆に高い評価につながるかもしれない。

これでは他の名もなき同業者は堪えられない。それにそういうエライ人は、自分で仕事をしないで補助者にやらせることが多い。自分でやらないから、仕事の大変さもわからない。

所謂インド以下の低賃金で補助者を雇用し、彼らの労働の剰余価値を搾取し、いわば不労所得を得て、それをエライことの表徴だと思つてい

るフシがある。

なるべくマル経用語は使いたくないが（使うとアレルギーを起す人が多いので論旨を誤解されるおそれがある）事實は事実だから止むを得ない。（わざわざ断る必要もないと思ふが、私は、資本主義社会分析の用具として、マルクス経済学の、そのすぐれている——と私が思う——部分のみを借用しているだけであつて、現に存する所謂社会主義国家体制を全面的に優れている杯とは思つていない。科学的精神、これこそ私の拠つて立った学問的基本姿勢であるから教条主義は私の採らざるところである）

知識、経験、商才等に於て会員間に差がある以上、事件数、従つて収入に差があるのは、或る程度致し方ないが、あまりにも差がありすぎることは、会員間に階層分化を生じ、利害悉く反し、階級闘争とまではいかないが会の結束を乱すことはまじかない。

持てる者と持たざる者の対立である。

事件量の多い会員が、先に述べたような自己抑制の強さを、顧客に対してでなく、他の同業会員に対して発揮してくれることを望みたいものである。

事件量を確保乃至増加せしめるため、報酬ダンピングを行う行為は、いわば顧客の顔色だけを伺つてい

行為であつて、そのために他の同業会員がどんなに迷惑しているかを考へない行為である。

およそ人の上に立つ者は、弱者に対し惻隱の情、思いやりがなくてはならない。

自分さえ良ければ良い、事件量の少ない会員のことなど知つたことではない、優勝劣敗は世の慣い、ダンピング競争に負けるような会員は脱落して行つても仕方がない、とまでは言ふまいが、まさにそう考へているとしか思へないような言動をとる人にリーダーシップをとられては堪えられない。

折角、高い報酬を貰えるというのに殊更ダンピングして事件量を確保乃至増加させるといふ行為は、全体の事件数が一定であることを前提にすれば、他の弱小会員を圧迫し、遂には競争場裡から駆逐してしまふという作用を有する。

彼らは報酬を高くすれば、客に逃げられて事件が減ることを心配しているのだから、報酬を高くすればより少ない事件数で同じ収入が得られるのである。たとえ結果的に事件数が減つたとしてもそれは誰か他の会員に回るのである。

自分のことばかり考へず会員全体のことを考へ、もっと大らかに、視野を広く持てないものであろうか。指導的立場にある者は、すぐそういう態度をとつてこそ会員の尊敬を

得られるのだと言いたい。

スーパーマーケットがあるまいし、薄利多売の商人は、我々の世界では尊敬されないのである。

彼らは、あれほど顧客の人気を気にして高い報酬を貰うのを躊躇するくせに、何故、補助者の低賃金、それに伴う不評判に目をつぶっているのか。何故、高い収入を得て、補助者の待遇をよくしようとは考へないのか。

何れ資格を取つて独立したいと思つている補助者以外は、多かれ少なかれ現在の低賃金に不満を持っておりようである。知らぬは先生ばかりなりとはこのことである。

お客の顔色ばかり伺わないで、補助者や同業会員のことをちつたあ考へると言いたい。

年計報告の統計で一件当り報酬が日本国中でピリから二番目というような低報酬で、補助者にも破な賃金を払っていないくせに、よくもまあ大きな顔ができるもんだ。

年計報告の数字はいくらかサバを読んだ数字であるにしても、その点は各会みな同じなのだから、比較の資料としてはそれで十分だ。このことは経済的觀察をすれば、需給関係が大いに影響しているであろう。

嘗て大正年代に於て、薩長、つまり、鹿児島、山口の両県は、司法代書人の絶対数に於て、日本の双壁であつた。何と東京や大阪よりも多か

ったのである。

現在では、さすがに絶対数では劣るが、人口比では依然としてその多きは双壁である。

これは何を物語っているのだらうか。

私は、明治絶対王政の反動的政策の影響であると考えているが、この点は紋では深く立入らない。

とにかく、そういう傾向は仲々急には変らないものである。そして土地家屋調査士制度の草創期に於て、司法書士は容易に土地家屋調査士の資格を得ることができた。

だから山口県に於ては、調査士は司法書士と同様、極めて需給関係が悪いということができよう。容易に報酬の値崩れ(?)が生じる状態にある、と云ってよいかもしれない。しかし、意思を持った我々会員が、そのような経済法則の働くままに放置しているだけというのは、いかにも能のない話ではなからうか。

会員皆が自分一個の利益のみを考えず、全体の利益を考えて、報酬ダビングなど絶対にしない、と決めて実行すれば、値崩れが起きる筈がない。

或は、「どうせ、調査士の試験なんて易しいんだから、此の程度の低い評価を受けても仕方ないよ」と言った自嘲的態度をとる人がいるかもしれないが、そういう態度は断じて

まちがっている。

東京都立大の江藤教授が言うように、本来、横の水平的分業関係であるべきものが、日本では、全て縦の上下関係にされてしまっている。

これは民主主義社会にはあるまじき現象なのである。

調査士の仕事の重要性を考えたら、調査士の仕事は、調査士しかできないんだと胸を張って言える筈である。数学や作図が嫌い、又は苦手だから調査士はやらない或はやれない人は結構多いのである。

世上、とかく入学試験の難易つまり合格最低点の比較のみでA大はB大より格が上などと言う。これもあまりに日本の発想である。

たとえば、入試の難易度で、京大より東大が難しいのは事実にはちがいない。(尤もそれは、逆に縦社会日本が作り出した事実でもあるのだが)

しかし、その故を以て京大より東大が格が上などと軽々しく言えようか。そんな事言ったら京大生や出身者は怒るだろうが、その前に、そんな非科学的なことを言う手合こそ嗤われるべきがある。

抑々、学力というものは個人に帰属しているもので、学校に帰属しているものではない。

入試が難しい善の東大物理学科は、遂に一人のノーベル物理学賞受賞者

をも輩出してはいない。

このことは、学力就中入試で高得点を挙げ得る種類の学力の性格を雄弁に物語ってはいないだらうか。

世界的数学者である広中平祐氏は、御承知のとおり柳井高校の出身であるが、私が得ている情報では、同氏は、どうも大学入試の時点では、東大に入れるほどの成績ではなかったと思われる。

当時、東大理科一類に入った五百名は、それなりに学力はあったろうが、その中で、その後成長して世界的学者となった者がどれだけあろうか。大方はせいぜい年収億千万円前後の、大企業の技術系部長といったところではなからうか。

失礼乍ら調査士諸君の中には、学歴コンプレックスだけでなく、学力コンプレックスもあって、東大卒でさえもそれ位の所得しかないのだから自分たちが所得が多くては申訳ないとも思うのか、折角法務大臣が認可している決して多いとはいえない報酬額さえ遠慮勝ちにオズオズと買っているような気がしてならんのである。

これでは自ら貧窮状態を楽しんでいるとでも評する他ない。

高卒の競輪選手、野球選手が年間一億円稼ぐのに、報酬以外に何の保障もない調査士が、何で億千万円稼ぐのを遠慮しなくてはいけないのか。自己卑下するのはもう良い加減に止

めにしてもらいたい。

昔は貧富の差が甚しく、教育の機会均等もなかったから、学歴不要、従って社会的評価の低い職業にも有能な人がいた。

そして、昔は子沢山であったから、そのような人の優れた素質を享けた子が生れる確率も高い。

そんな子が、親の期待を一身に受け、自らも刻苦勵励して、親子二代がかりで漸く中、上層階級へ浮上するということがあった。

しかし、今時はそんなことはなからう。能力のある者は必ず報いられる。必ず一流大学を出て、一流の職を得るにちがいない。これだけ多勢の者が大学へ行くのだから」という人がいるかもしれない。しかし、それはオプティミスティックにすぎるというものである。

私の見るところ、実質的機会均等は、今尚、果されてはいないと思う。けれど、東大生の親の所得水準が最も高いこと、高額の寄付金を納めれば私大医学部に入れること等の現象を見れば、決して真の意味の教育の機会均等は達せられていないと言わなければならない。

大学に入るのに、競争があること自体は構わないが、競争の条件が、単に試験のときだけ平等というのではなく、その前段階に於ける勉学の条件に於ても平等でなければ、真に機会均等とはいえないと思う。



いわんや試験の結果そのものが金で買えるようでは、教育の機会均等どころか、封建時代の世襲制と何ら異なるところはない。

だから、「学歴不要の調査士は、皆大したことはないんだ。大したことなくいくせに高い報酬を取るのはいの外の外だ」と、門外漢が言うのならまだしも、言った本人の認識不足を嗤えばすむが、調査士が自分自身を卑下して、そんな風に見るのだけは止めようではないか。そんな見方はあまりに惨めではないか。

それとも「私はもともと頭が悪いから、どんなに良い境遇にいても大したことはできなかったでしょう」と謙遜されるのだろうか。

謙遜も一種の美德だから御本人がそうおっしゃりたいのなら構わないが、「それならどうしてそんなに頭のワルイ貴方に国家が調査士の資格を与えたのでしょうか」と反問したい。

そんなに頭のワルイ人に資格を与えて、憲法二九条で保障されている大事な国民の財産権の基礎となるべき表示に関する登記事務に関与させるとは、国家として国民に対する責任を果していないではないか、とくに文句を言わなくてはならない。

そうしたら貴方は、「それは一寸待って下さい。私もそれ程頭がワルイと思っていますわけではない。一寸謙遜しただけです。」と言うだろう

か。

それとも「はあ、そう言われても仕方ありませんなあ。私の頭が悪いのは生れつきで、どうにも救いようがありませんのでねえ。国民の皆さんに御迷惑をかけるようでしたら、資格を剥奪されても止むを得ませんなあ」と言うだろうか。

中には報酬額が上ると収入が増えすぎて税金の心配をしなくてはならない向きもあるようだがこれなど、一方では生存を維持するに必要な最小限の事件数も無い調査士がいるというのに、全く賢沢な悩みというべきであろう。

私が聞いた話でも、横浜の司法書士で年間五千件やる人が、「年三千年位のとかが最も良かった。それを超えると、人件費、税金が増えて、まるで社会率仕をしているようなものだ」というのを聞いたことがある。だから、事件の多すぎる人は、すべからず報酬を上げすぎる位にして、事件数を減らし、自然に事件が他会員に回るようにすべきである。

本人の収入を減らすことなく、他会員をも潤おすことのできる此の方法を、何故、事件数の多い会員が採用しないのか、私は不思議に思う。

仕事が減って楽になり、経費も減少する。収入は変わらず従って税金もふえず、その上、事件が他会員に回って会全体としても事件が平均化す

る。こんな一石何鳥にもなる名案を、何故、事件数の多い、指導的立場にある人々が実行しないのか。

惟うに自分のことばかり考えているから、ダンピングして事件数をふやすことしか考えつかないのであろう。こういうのをアタマがワルイというのである。

昨今、高額な測量機器、コンピュータ及びその周辺機器が現れ、これを求めている会員も多いようだが、これが屢々借入金によっていることを聞くのである。

そのこと自体は各人の自由であるが、これら高額機器に対する支出は所謂資本的支出であるから、健全な経営体としては自己資本を以て購われるべきものであるのに、借入金に頼らなければならぬとは聊か不健全だと言わなければならない。

固より、私が常に唱えているように、調査士業務はプロフェッションであるから、経営体としての論理だけで行動すべきものではないが、経営が破綻すれば依頼者国民にも迷惑を及ぼす事態が考えられ、ひいてはプロフェッションとしての責務を全うできないことにもなりかねない。だから、経営的観点を無視することはできないと思う。

そこで経営的観点からみて、このような不健全な状態が生れるのは報酬が安すぎるからだと言いたい

のである。

あの程度の機械は、経営体で言えば、經常収入乃至内部留保の範囲で、軽く賄えるようになってはならないと思う。

それができないということは、「支出が多すぎる。つまり、そんな高額機器は必要ない、百姓の機械貧乏と同じく過剰投資である。」という考えを採らない限り、収入が少なすぎるといふ他ないであろう。

ことほど左様に安い報酬であるにも拘らず、その事実を認識せず、猶高すぎるとさえ感じて、あまりに安い報酬で事件を受託することを続けていると、我々に対する国民の認識は、いつまで経っても、せいぜい測量もやる代書屋といった程度の認識を出ないのではあるまいか。

そういう状態を自ら作り出しておき乍ら、単に会員歴が古いか、事件数が多いとかいうだけで、井の中の蛙よろしく、会の中だけで大きな顔して威張っていても、それは滑稽以外の何ものでもない。

「存在が意識を決定する」ということがある。既に皆さんよくおわかりのように、私の意識は、事件数の多くない司法書士、土地家屋調査士として形成されたものであることはまちがいない。だから、私の意識がどのような実態から形成されたか、多少具体的に明らかにしておく必要

がある。

事件簿を見ると、同業以来十年間に件数五十件を超えているのは、昭和四十八年の五十六件、五十一年の七十六件、五十二年の五十八件、五十四年の五十九件だけである。本年五十五年は、十一月までに三十九件にすぎず、十二月に入ってからはまだ一件もない。

司法書士としては、規模に、例年以來十年のうち、事件数の多か一十年は、昭和四十八年の百九十九件、五十三年の二百件、五十四年の百八十九件くらいのものである。本年は、

十二月十日までに百五十九件である。

十一月は司法書士の補正調査月間で、企画担当理事として、前をかくといけないので、なるべく提出したくなか。だにも抑らず、産果(？)十六件出す職員となった。別に調査士としては三件出している。

そんな十一月の夜の日、受付の職員曰く、「事件数が多いですねえ。今年は何事件数かどうなっていますか。書道ほど仕事人はいませんよ。」と人海いをしていられるかもしれないが、さうだとすると、十位経っても事件数が少ないものだから私もあんまり

有名ではないらしい。人海いでないとする。これは又何と無類なるの。イラであることか。

私が、事件数ナンバーワンだとすると、他の補助者を何人も雇っていい。さうする先生方は、たとえインド以下の低賃金でも雇って支払えるの

だろうか。

事件数の最も多い(？)私でさえ、人々に低収入なのだから、生活維持のため、報酬額はもっとも上げて貰わなくてはならない。かの職員は、そのことを私に教えてくれた、ということになろうか。

### 合格おめでとごうじやいます

本年度の士業実務調査士試験の合格者は左記の通りです。

氏 名	生年月日	住 所
友 原 隆	昭三・八・二四	広島県三瓶郡田原町由五五一番地
吉 本 忠 巳	昭三・一・一	宇都宮市南区平町二〇〇区
白 木 博	昭三〇・一・二二	千葉県新田町西丁第一番地 兼任丁橋二〇四号
小 川 義 一	大九・一・二二	宇都宮市八王子町二〇二一
藤 田 重 夫	昭三〇・八・一七	島根県益田市駅前町二〇番七号

### 訃 報

謹しんでご冥福を

祈ります

陣 田 勉 殿



享年六〇才(大正八年生) 東京府 下関南大寺吉見下一四三三七 昭和五五年九月二〇日逝去されました。 昭和三二年八月一日日入会、支部理事、企画調査委員、監事、福利委員、庶務、役員、委員、副委員長 昭和五五年五月 会長 栗原 昭

### 編集雑記

本下会員の鑑子紙にあわせて、私

★熱狂的なザ・マンザイブームのまじり。オコタノイもマンザイのせりふではしまらないはなし。まじり世の中。オコタノイ。ただ一人真摯に描っておられるのが本下会員でした。

★オコタノイもマンザイのせりふではしらないはなし。まじり世の中。オコタノイ。ただ一人真摯に描っておられるのが本下会員でした。★オコタノイもマンザイのせりふではしらないはなし。まじり世の中。オコタノイ。ただ一人真摯に描っておられるのが本下会員でした。

### 随筆

## 禪と非常呼集

副会長 新本清人

本文に入る前に次のことをまず御説明申し上げる。

禪(ふんどし)とは何か? 若い世代の方々は御存知ない方もあるだろう。

昔、陸・海軍共に兵、下士官等に着用した今様ブリーフ、或いは猿又に代る男性自身の装身具の一つである。

さらし木綿を丁度タオルより少し長い目に裁断して、その一方に真田紐を縫い付けた、とても便利な代物である。

小生の知人で今も着用している御仁もある程、だ。

非常呼集とは、その昔陸軍で緊急非常態勢に應ずるため、軽軍装を整えて所定の場所に整列する等の戦闘配置につくことと説明すれば大方御理解いただけることと思う。

費様 何年次か? ハイッ十七年徴集であります。

これはその昔、忘れもしない陸軍

の軍隊生活の一駒である。

又、今頃何を寝呆けて靖国神社へ行き損ねた幽霊のたわ言かと御笑いかも知れないが、これ又結構。

その積りで御一説いただければ幸である。

往時の言葉で言えば、召されて通信兵として中支の最前線。漢口のその又奥地、揚子江の上流地点に派遣されたのは昭和十七年も師走のことである。

さてここに駐屯した我が通信隊での出来事をホッと想い出し、気の向くままに記述することとする。

初年兵教育(新兵)については當時は何処も同じで厳しく苦しい訓練の連続であったことは、二等兵物語等でとくと御承知のことと思ひ、ここではこれを割愛させていただきます。

その初年兵が現地に入隊して一、二カ月を過ぎ、最前線の生活にも幾らか馴れた頃の出来事である。

今夜は敵襲があるかも知れない。兵は各自携帯糧秣を雑のうに入れ、

水筒に水を補充して寝ろ。

若しにも備えて肌着は新しいものを着用して寝たのは古武士の教えだ。死に態に汚れた肌着を見せるのは武人の恥。とも付け加えたのは週番下士官の声であったと思う。

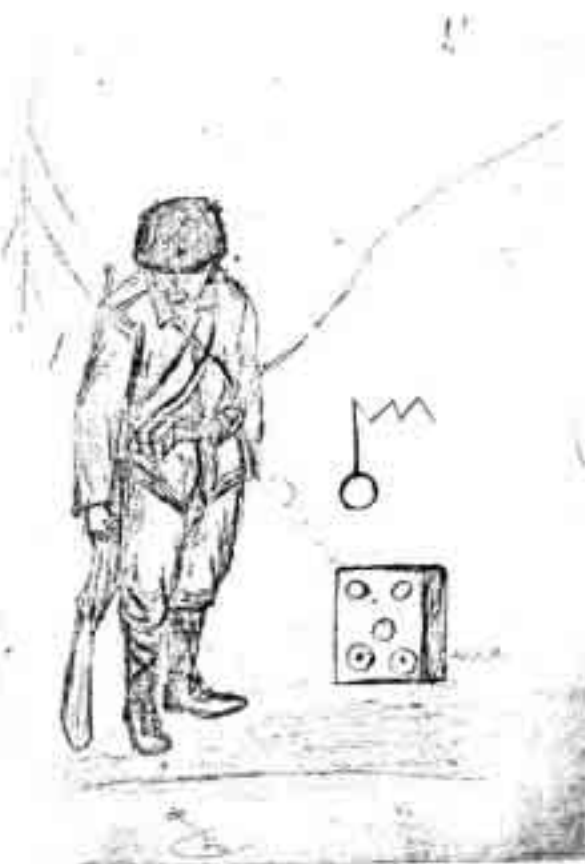
新兵さん達、俄然緊張して準備に追われる。

只さえ口喧しい内務班長の鬼軍曹殿の指示も終り、今夜は非常呼集があるぞ、と皆んな覚悟して藁布団の寝台にくるまる。

昼間の厳しい猛訓練に疲れた体はすぐ夢路を辿る。

どれ位の時間が経ったろうか。押し殺したような力強い低い声で非常呼集。非常呼集。と伝える不寝番兵の声に皆飛び起き。

点燈の許されない真暗闇の営舎内では、大きな音を立てることも声を



出すことも許されず、静粛に軍衣袴を着け編上靴を履き、腰を曲げたままの姿勢で巻脚絆を手早く巻き、軍装を整えて小銃には各々実弾五発を装填し、着剣して、営舎前へ二列横隊に整列する。

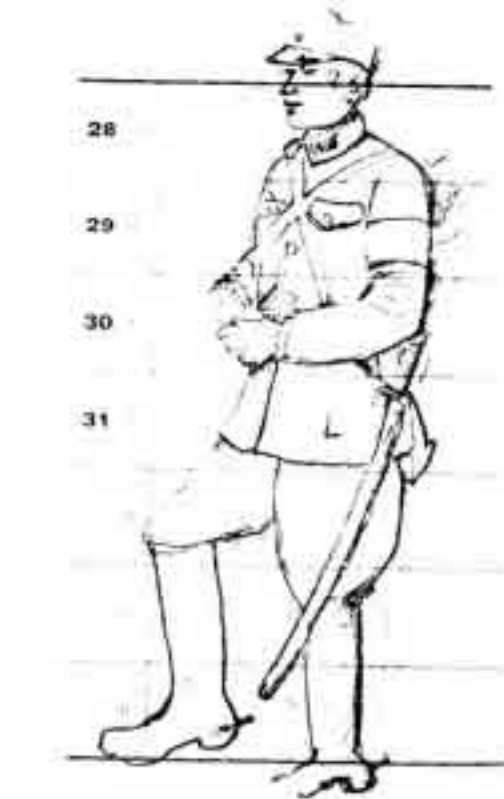
ここで内務班長は分隊長となり、低い力のこもった声で人員点呼の号令をかける。「番号ッ」一、二、三、四、五、六……「満か欠かッ」満又は欠と最終列の者が答えるのがルールである。

ここで分隊長は「よしッ」夜襲を企てている敵兵の機先を制するため只今より九紫山方面に向って前進する。皆落後せぬよう俺について来い。の号令で全員は早駆けと相成った。時も折。困ったことに整列の直前より小生腰を曲げたままの姿勢で軽軍装をして隊列に加わっていたので



ある。  
その原因たるや、何をかくそう。非常呼集の起る前、小生寝床に於て寝相悪く、あがいたために生じたらしく（もがいたというのが正しいかも知れない）就寝前に週番下士官の言を信じて汚れたそれと着替替えた木綿のハンカチならぬ木綿の襦が正常なる位置に居住せず、袴下の中を短足の小生の脛の辺りまでずり落ちていたことに気付かず、そのまま腰を曲げた姿勢で慌てて巻脚絆を着用したために腰を伸ばして立つことができない。

何をか言わん。慰問袋の中に大切に保存していたマ新しい襦をわざわざ取出し着用し及んだからサア大変。新しい襦は紐もしなやかであり、又強靱でもある。  
ウンと緊張しても紐は腹に喰込むだけで地蔵様の眉よろしくビクともしない。  
整列した新兵さん達は皆緊張して分隊長の指揮に服し、我遅れじと静粛の中にも暗闇を冀進するの勢である。  
背伸びすることもできず、腰を曲げたまま肌には油汗をかき、ウ、ウ、ウ、と唸りながら落後してはならん、と追隨した時の苦痛は想い出しでも懐かしい。  
落後したら必ず捕虜にされると教えられ、一度敵軍の捕虜となった者は再び日本軍の下に帰ったとしても必ず死刑に処されると陸軍刑法の講義を受けた直後の出来事ゆえに當時の心境たるや誠に複雑であった。  
それは何も彼も恐しかったと言ったと言った言のうの本音かも知れないと今では思っている。



又こんな苦しい強行軍を体験した者はかつての日本陸軍軍人の中で小生が唯一人であろうと自慢してみても始まるまいに。  
さて、それからどうなったかとハア。それは幸にもだんだん走らなれ堅く巻いた脚絆も途中から幾らかゆるみ、泌み出る汗とが相互作用してか、ようやく腰を伸ばして本隊に追隨できる状態となった時は、日頃から訓練され強行軍には誰にも負けぬぞと自負していた小生もかなりの疲労を憶えていたことも忘れ難い。  
これ、ほんとの話。全く笑い事ではなかった。  
さて、この非常の呼集も後で気がついて見れば新兵教育のために組まれた一種の演習であったと知ったのは帰營の途につく直前であった。  
何んとも可愛い、新兵さん達の訓練風景ではある。

### 日和見申述書

このごろ、しみじみ思うところは、土地家屋調査士を始めたころに比べて、登記申請手続の手順がますます複雑迂遠になってきた、ことである。  
世上では、行革とか事務の合理化・簡素化が口やかましいほどに騒がれているのに、我々が登記申請に際してととのえる書類の一つ、押印する数の一つでもかつて減ったことがあるか。いや、むしろ一件当りの作業量は大幅に増えたりする。  
我が国が世界に冠たる管理社会化にあることは充分承知しているが、これほどまでに複雑な手続きを要するものだろうかという素朴な疑問を一般の人ならずとも抱きたくなる。  
個人の権利の保護という美名のもとに事務手続きの迂回生産が進行しつづけているのではないだろうか。  
「城」という小説がある。実存主義の祖といわれるカフカの作品だが、この主人公は仕事のためある城にまねかれて城下にまでやってくるが、複雑怪奇な手続きなどのために、いつまでたっても城の中に入ることができない。  
目の前にそびえる城の門はいつもあいているのに、誰もがそこを自由に出入しているのに主人公だけがどうしても入れない。  
登記の書類を作製しながらなぜかこの小説を思いうかべる当今である。

# やぶにらみ下関地名考(3)

下関支部 前田博司

## 地名に託す世の流転

スプロール(虫くい)現象とやらで、いつのまにか山が消え、谷を埋めて平坦な住宅地が自然を奪ってゆく。

町のなかのわずかな緑さえもが歳月とともに色あせて、画一的なプレハブ建築やコンクリート建造物ばかりがやたらと空間を占拠する。

このような環境にあっては、今まで主として地形や自然の状況に由来して名づけられてきた地名は、そのよりどころを失い、かわって人為的な地名が随所に登場してくる。

長府の古図によれば、松林が水際一帯を埋めつくしており、松原、はまさにその名のごとくであった。今長府松原町は山側に、その位置をずらして、松原ならぬベッドタウンに化してしまっている。

そのさらに上の長府羽衣町では天女が羽衣を掛ける松の枝をさがしあぐねている。

北浦の海辺も同様、梶栗松風町は住宅のわずかな隙間に氣息エンエン

たる松の木が残っているのみで、かつての松林の面影はさらになく、とうてい松籟を聞くことなどかなわな

いありさまである。自然が次第に遠ざかると、彦島緑町や形山みどり町といった色彩表現でわずかに残された、自然を強調しようとする。

地名の表現が、みどりからグリーンに変るとき、それは、自然との訣別を意味している、とするのは偏見だろうか。

グリーンモール・シーモール・サントリーと駅前一帯は横文字が天下をとってしまった。

考えてみると、グリーン(緑)・シー(海)・サン(太陽)、そしてモール(木陰の遊歩道)とここには自然が隠れているはずである。だが、そのどこにも、もぎたての自然はない。あるのは、まがいものの、疑似自然、だけである。

ブラウン管の彼方や、ショーウィンドウの空間にしか、我々は自然を必要としなくなったのだろうか。

職場空間から解放されて、人々の足はいつしか要(かなめ)通り

やまるとは通り、東華街といった、レジャー空間の巷へとさまよい出る。そうした場所の地名には、当然のことながら、すでに、自然はお呼び(ネーチャー・コール・ミー)でない。

関の巷の竜宮にたむろする乙姫たちの口説についついのせられ、はめをはずして

肝心かなめの財布の中味

となげかせられるのが落ちであろう。

話題を変えよう。

私は、今まで意識的に一つの町の名に触れずに来た。

阿弥陀寺町の東に壇之浦町がある。壇の浦という地名については、古代の軍団の所在地であったとする説がもっぱらである。

この町の住民は、もともと関門海峡で漁撈を営む漁民たちであった。阿弥陀寺浦と呼ばれた浜辺をその本拠と定めて、ささやかな厩屋(とまや)を作っていたのである。

長府藩主毛利綱元のころ、藩の御用米の蔵を設けるために、その地の漁家を火の山下の壇の浦に移した。

このころ北前航路が開設され、全国的な流通経済の時代にさしかかっていた。そのために大規模な御用蔵の築造が藩のために必要となったものである。

その設置場所にあてられたのが、

阿弥陀寺浦の漁民の居住地であり、彼等は藩命によって、強制的に移住させられたのであった。いわば、漁民たちは時代の犠牲者であった、と言えよう。

漁民たちが移住した先の様子については、平井温故という人が次のように記している。

「壇浦は火山麓海部片傍町也、昔は壇浦という名ばかりにて民家とてもなかりしに、先大君綱元公の御時阿弥陀寺町の漁家をここに移さる。年月を経るに従い、今は漁人繁栄して家々の経営乏しからず、子孫安全の漁村となるもこれみな先君の余沢なり」

時は移り、幕主攘夷のさけびかまびすしいころ、長府藩としても海防に力を注ぐこととし、砲台を関門海峡を臨む場所に設置した。

火の山下の海岸もまた、その砲台築造用地にあてられ、文久三年(西暦一八六三年)漁民たちは再び転住を余儀なくされた。

漁民たちの住まいにあてがわれた場所は、かつての阿弥陀寺浦の旧地である大倉の東のわずかなさきであった。

この山裾の乏しい土地に全戸寄り添うように漁家が建てられ、火の山下の故地の名をついでここを、壇之浦と呼んだ。

陸地だけではとうてい敷地に足らず、そのため、特に海面使用料をは

らって、海側に掛け出しをした、壁の寝床のように細長い住家が今も軒を並べている。

火の山下は、その後、旧壇ノ浦、と呼ばれて、ことと区別された。

世の移り変わりとともに、いつも犠牲になるのは庶民であり、壇之浦町は歴史の荒波をもちにうけて流転のドラマを経験した意義深い歴史地名と言うことができよう。

### ああ、海峡のまち

#### しものせき

堺屋太一の著書「群化の構図」には、「人が来たがる都市」創りの観光客誘引要素（アトラクティブス）として次の五つをあげている。

- 1 ヒストリー（歴史）
- 2 フィクション（物語性）あるいはロマン
- 3 リズム・アンド・テースト（音楽と味）
- 4 ガールアンドギャンプル
- 5 サイトシーイング（風光明媚さ）

この五つのうち三つ以上あれば、どんな不便なところでも世界的な大観光地にできると著者はのべている。考えてみると、下関のまちは現時点ですでにこの五つの要素のすべてをそなえている。

歴史については、神功皇后に始まって、源平合戦、維新発祥の地などさまざまな事件がこの地でおこっ

ている。

これらの史実をめぐって、平家一門滅亡の哀話、耳なし芳一の怪談など、海峡をめぐっての叙事・叙情物語は周知のことであり、武蔵小次郎の巖流島での決闘シーンは、古川英治や村上元三の小説によって、さらに大衆のロマンをあふりたてた。

かつての琵琶に託しての平曲にかわり、昔から伝わる盆踊りが平家踊りと名をあらためて、下関の情緒をリズムックにおおれば、北浦産の新鮮な海の幸に加うるに馬関のフク料理をもって、下関の名は全国的に知られるようになった。

関の歓楽街は、竜宮もかくやと思わせ、クールなレジャーシモノセキポートはまさにギャンプル天国。

フグの刺身にひれ酒飲んで

酔って竜宮豊前田唐戸

今宵乙姫、明ければポート

クールなレジャーの関むすめ

などと出たらめな歌の一つも口ずさ

みたくなるほどにガールアンドギャンプルは魅惑満点。

この下関のまち全体を、風光明媚で知られる関門海峡の自然がやさしく抱擁している。

こう書きあげてくると、下関の町

がいかに観光都市としての魅力を充分にそなえているかがよくわかる。

この町の主な祭りである長府忌宮

神社のスポーディが神功皇后の伝承

に、そして赤間神宮の先帝祭が平家

滅亡と結びついているのはことに興味深い。

これらの神事の歴史をたどってゆくと、いずれも江戸時代の中ごろからにぎやかになっていて、どうもその底流にデイスカパーシモノセキをねらって演出した当時の智者たちの存在が浮かびあがってくる。

そして当今、維新で売り出しているのが吉田の東行庵である。

地名にしても、いつしか神功皇后

伝承からとって、長府に琴浦や珠の

浦町、源平合戦に関連してみもすそ

川町などが命名されている。

巖流島は当初の船島という名を知

っている人はほとんどいないほどに

なってしまう。

ふりかえってみるに、下関のまち

の存在理由が、関にあったことは

その名が赤間関から下関に変わっても

依然として関の字を持ちつづけてき

たことから明らかである。

地方の小港町にすぎなかったこの

まちが、全国的に知られるようになったのは、江戸中期に蝦夷（今の北海道）から日本海をまわって、大阪

へ至る北前航路が開発されてからで

あり、商取引の情報をもとめてこの

下関の地に多くの商人が集まり、西

の浪速とも呼ばれるほどの賑わいぶ

りを呈するに至った。

先ほどのデイスカパーシモノセキ

の動きもこのころに始まる。

さらに開国とともに大陸への出口としての立地条件から、この町が港町としてまた関所としての機能を充分に発揮したことはいうまでもない。

それが、敗戦による大陸との往來の杜絶に加うるに、九州への各種動脈路の貫通によって、以後の下関は急速に通過都市化していった。

この町が今後生き長らえるべく、過去の関の栄光をかなぐりすて、観光都市にその存命の途を探り、また、市（いち）の機能を生かすべく、シーモールしものせき、などのショッピングセンターを作りあげて懸命に浮上の策を講じているのが現状といえよう。

かつて港町として、多くの富を吸収した港の商人たちのしたたかさの系譜が、今なお脈々として受け継がれていることを確信し、やがて下関が、海峡の町しものせき、としてたくましく浮上しはばたくことを期待してやまない。





# 長州人気質再録

## 防長人物抄

長州人気質について二回ほどこの「防長人物抄」でとりあげたが、三月四日付の山口新聞を讀んで少し違ふ感じがした。

もう少しばらつくさあていたが、

「吾人全一」といふ人が著わした、「わかが秋の実力著け」について、この日の紙面はとりあげてゐるのだが、全国と比較した山口縣の実力は次の通りだ。

ランキングの高い順にまづてみる。

就人へ支援	二位
教育熱心度	三位
読書・習字	五位
情報熱心度	六位
マナー度	六位
マナー度	七位
日本人度	十位
が人調度	十二位
生活近代化度	十二位
住むたく度	十五位
生活快適度	十五位
食糧分配度	十六位

知	有度	二十六位
好	み度	十七位
世	界第三度	十八位
金	持も度	十九位
繁	花も度	二十位
コ	ンピュータ度	二十一位
新	聞度	二十一位
任	任事度	二十二位
改	行度	二十二位
健	康優良度	二十三位
か	かみ度	二十三位
出	産度	二十四位
合	格度	二十五位
健	康優良度	二十六位
身	心度	二十六位
生	活安定度	二十七位
少	少度	二十八位
キ	ャンプ度	二十八位

「又々、やはり」は三位、交際・娯楽・ボランティア活動の三要素の順位が平均して高く、地位の高い八方美人型、交際費はめんどめんど、片腕に高い消費を回してゐるとか、生活面では、「金持も度」も中程度で、「消費も度」も中程度、「マナー度」は七位、世間的なものは金を持たないといふ性質と予想といふ。「就人へ支援」は二位、「マナー度」は三位、いつでも誰にでもさうさうと助金の援助とか、教育熱心は十一位と少ないのだが、ハイ・キ・パレット数は二桁で、ややキ・パレット、累計費に比べると割高支出度も二位と多い。消費の順位は、「情報熱心度」は二位、新聞・雑誌・書籍、再読、再読、雑誌・新聞・自立消費雑誌・教育・娯楽費などからみたもので、全国で最も私的消費熱心度のハイ・キ・パレットの特長、また教育熱心な所でもある。「教育熱心度」では三位、高校進学率は、大学進学率十二位、高校進学率は十二位と、伝統的に教育熱の高さを示している。

「又々」は三位、交際・娯楽・ボランティア活動の三要素の順位が平均して高く、地位の高い八方美人型、交際費はめんどめんど、片腕に高い消費を回してゐるとか、生活面では、「金持も度」も中程度で、「消費も度」も中程度、「マナー度」は七位、世間的なものは金を持たないといふ性質と予想といふ。「就人へ支援」は二位、「マナー度」は三位、いつでも誰にでもさうさうと助金の援助とか、教育熱心は十一位と少ないのだが、ハイ・キ・パレット数は二桁で、ややキ・パレット、累計費に比べると割高支出度も二位と多い。消費の順位は、「情報熱心度」は二位、新聞・雑誌・書籍、再読、再読、雑誌・新聞・自立消費雑誌・教育・娯楽費などからみたもので、全国で最も私的消費熱心度のハイ・キ・パレットの特長、また教育熱心な所でもある。「教育熱心度」では三位、高校進学率は、大学進学率十二位、高校進学率は十二位と、伝統的に教育熱の高さを示している。